

# Eureka X

六年制通信 No.6 令和4年5月13日(金)号

## 定期テストはきっかけ

いつのユリイカでしたか、刑事コロomboの言葉を紹介したはずだと探してみたら、何と8年前でした。Eureka IIにありましたから。いつかもう一度紹介しようと思っていたのですが、思い出したこの機会を逃さないようにしようと思います。

人との出会いが、多くの場合は偶然の出会いが、自分の一生を大きく左右することがあります。あるいは書物との出会いが自分の進む道を決めるということもあるでしょう。心に残る物語は自覚しないでも私たちの深層心理に影響を与えているでしょうから。恩師の言葉、書物に書いてあったこと、ドラマで主人公が話したことなど、生きていくうちに私たちは多くの言葉に接しています。

私にも忘れられないドラマはたくさんありますが、中でも刑事コロomboの「殺しの序曲」が最も印象に残っています。天才だけが集まるクラブで起きた殺人事件を解決する推理ドラマですが、その最終場面でコロomboの言う台詞が忘れられないので、君たちにも紹介したいと思います。何しろ、非常に個人的なことですが、学生だった頃にこの言葉が確実に自分の支えになっていましたから。

「おかしなもんです。私は頭のいい人にずっと出会ってきました。あなたやこの家にいる人のことじゃないですよ。お分かりですよ。学校でも自分より頭のいい子供 (smarter kids) はいっぱいいました。初めて軍隊に入ったときも賢い奴 (clever people) がいましたよ。こんなのがうようよいるようじゃ刑事になるのも容易なこっちゃないと思いました。でもね、考えたんですよ。連中より懸命に働いてね、時間をかけて、本を読んで、注意深くやりやあ  
何とかなるんじゃないだろうかってね。なりましたよ。私はこの仕事が根っから好きなんです。」

いかがですか。下線部は私がつけたもので、この箇所が英語で何と言っているのかずっと知りたくてDVDが出た時は嬉しかったですね。原語では…If I worked harder than they did, put in more time, read the books, kept my eyes open, maybe I could make it happen. And I did. きれいな仮定法の文章です。

初めて日本語の下線部を聴いたときに思いました。ああ本当にそうだなと。時間をかけて、本を読んで、注意深くすれば何とかなるかもしれないな、自分の本当にしたい仕事が見つかるかもしれない。学生だった私もまた自分の周囲で自分よりはるかによくできる smart で clever な連中に会ってきました。学校でも下宿でもね。師事した先生にいたっては、これはもう一生かかっても足元にも及ばないような方でした。書物を通して懂れた先生方はみな若い頃から非常な努力をされてきた方ばかりで、追い求めても自分のできなさ加減を知るばかりでした。こりゃしかし生きていくのも大変だ

と、何となく自分の能力をこんなもんだと感じて、自信もなく、多少途方にくれているときでした。「懸命に働き (work は「勉強する) でもいいですね)、時間をかけて…」という台詞は、大げさかもしれないですが、おそらく能力の低い自分に残された唯一の道のように思えました。この台詞を何度も聞くうちに気持ちが落ち着いてきたのを覚えています。そうだよなあ。注意深く、時間をかけて勉強して、それで何とかなるんじゃないかとね。

やがて教壇に立って数多くの生徒と接するようになると、あの頃の自分を何度も思い出すことがあります。何となく自分の能力を思い知って、世の中は自分の思い通りにはならないのだということも漠然と理解してしまい、頑張らなくてはと頭ではわかっているけど明日になれば気が変わってしまう。一日のうちにも何度も気持ちは揺れ動き、素直に頑張らなければと思う自分と諦める自分が交互に現れる。間違っているかもしれませんが、生徒たちを見ているとそんな気がしたものです。

私も同じでしたよ。だからドラマの刑事の言葉にすぎたのだと思います。信じないかもしれませんが、君たちも決して遅いということはないのです。何をやるにしてもね。ただ、時間をかけて(put in more time)、注意深く(keep my eyes open)取り組んでいくことです。これはできます。きっとできますから。自分以外の人の能力を考える必要はないのです。自分の一日だけをよく考えるのです。立ち向かうべきは昨日の自分です。昨日より時間をかけているか、目を見開いているか。そういう一日を重ねていけばきっと何とかなりますよ。Maybe you also could make it happen. です。そう信じて頑張ってください。そして、その頑張るきっかけを定期テストは用意してくれているのではないかと。私はそう考えています。

### 今週のおすすめ

・知念実希人 『十字架のカルテ』 (小学館)

しばらく知念さんから離れていましたが、やっぱりこれだけはちゃんと紹介したくなりました。殺人事件の容疑者であっても「心神喪失者の行為は罰しない。心神耗弱者の行為は刑を減輕する」という法律があります。刑法 39 条ですね。事件当時、被告人が心神喪失か心神耗弱か、あるいは正常な判断ができる状態であったか、それらを判断するのが精神鑑定医で、本作の主人公です。沈着冷静で鋭い洞察力を持ち経験豊富な影山医師とその助手となった弓削医師が様々な事例に取り組んでいきます。

弓削凛には親友を殺され、その犯人が解離性同一性障害と診断されて刑事罰を受けなかったという過去があります。そんな司法の在り方に疑問を持ちながら、自らは精神鑑定医を目指しているのです。その目的は何なのか。最終章で親友を殺した犯人と対面することになるのですが…。

どの章もプロットがしっかりしていて面白いし、考えさせられることも多かったですね。司法に対する弓削の疑問に影山の口を通して作者は自分の考えを語っていますが、これが正しいと言った結論は提示していません。フェアな態度だと思いました。

BGMは Taylor Swift の *Shake It Off* でした…。